

平成24年度 第3回

函館市企業局経営懇話会 資料

函館市交通事業経営計画(第2次)における局内評価に伴う経営懇話会意見等と企業局の考え方

函館市企業局

1 財政収支試算等の計画・実績

(1) 財政収支試算

(単位:百万円, 税込)

区分	22年度			23年度			24年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	計画	実績	比較	計画	実績	比較	計画	当初予算	比較	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	
事業規模	1日走行キロ(km)	2,735	2,750	15	2,735	2,755	20	2,735	2,736	1	2,735	2,735	2,735	2,735	2,735	2,735	
	1日乗客数(人)	16,298	15,988	-310	16,129	15,578	-551	15,981	14,444	-1,537	15,853	15,743	15,651	15,574	15,510	15,461	15,425
	前年増減比(%)	-1.16		-	-1.04	-2.56	-	-0.92	-7.28	-	-0.80	-0.69	-0.58	-0.49	-0.41	-0.32	-0.23
	車両数(両)	32	32	0	32	32	0	32	32	0	32	32	32	32	32	32	32
	職員数(人)	109	109	0	107	114	7	104	106	2	104	108	106	106	106	105	105
	正職員数	69	69	0	69	69	0	66	67	1	66	66	66	66	66	66	66
	嘱託職員等	40	40	0	38	45	7	38	39	1	38	42	40	40	40	39	39
経常収支	営業収益	1,012	1,023	11	1,002	991	-11	987	992	5	977	968	963	954	948	943	942
	うち料金収入	953	965	12	942	939	-3	927	929	2	917	907	901	892	886	880	878
	営業外収益	293	280	-13	288	286	-2	295	306	11	300	321	314	313	302	316	301
	うち一般会計補助金	203	197	-6	198	201	3	204	218	14	209	230	223	222	212	226	211
	経常収益計	1,306	1,303	-3	1,290	1,277	-13	1,282	1,298	16	1,277	1,289	1,276	1,266	1,250	1,259	1,243
	営業費用	1,230	1,202	-28	1,231	1,228	-3	1,171	1,181	10	1,168	1,276	1,219	1,204	1,212	1,233	1,182
	人件費	611	592	-19	626	610	-16	558	553	-5	567	670	630	584	622	635	606
	うち職員給与費	486	480	-6	490	478	-12	472	452	-20	481	489	487	493	505	511	517
	うち退職金	37	25	-12	50	49	-1	0	0	0	0	87	52	0	26	36	0
	経費	453	433	-20	448	449	1	449	457	8	442	433	427	420	402	393	387
	動力・燃料費	50	47	-3	50	48	-2	50	49	-1	50	50	50	50	50	50	50
	修繕費	252	236	-16	249	239	-10	255	248	-7	251	246	244	240	225	220	217
	その他	151	150	-1	148	162	14	144	160	16	140	137	133	130	127	124	121
	減価償却費	166	177	11	159	169	10	165	171	6	160	173	163	200	188	204	188
	営業外費用	75	61	-14	70	53	-17	65	57	-8	61	57	59	59	60	60	59
	うち支払利息	31	32	1	28	27	-1	25	25	0	23	21	26	28	28	28	28
	予備費							2	2								
	経常費用計	1,305	1,263	-42	1,302	1,281	-21	1,237	1,240	3	1,229	1,333	1,278	1,263	1,271	1,292	1,241
	差引	1	40	39	-12	-4	8	45	58	13	48	-44	-2	3	-21	-33	2
	特別利益	118	118	0	118	85	-33	118	93	-25	118	118	118	118	118	118	110
特別損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
差引	118	118	0	118	85	-33	118	93	-25	118	118	118	118	118	118	110	
純損益	118	158	40	106	81	-25	163	151	-12	166	74	116	121	97	85	111	
資本的収支	資本的収入	163	153	-10	279	265	-14	317	373	56	344	414	291	188	209	162	142
	うち企業債	85	75	-10	146	133	-13	160	169	9	136	350	218	149	95	108	90
	うち市・国補助金	78	78	0	133	132	-1	157	204	47	209	64	73	39	114	54	53
	資本的支出	298	296	-2	396	389	-7	399	459	60	424	480	367	306	335	256	258
	うち建設改良	120	118	-2	216	209	-7	230	290	60	265	350	253	184	224	143	141
うち企業債償還元金	178	178	0	180	180	0	169	169	0	159	130	114	122	111	113	117	
差引	-135	-143	-8	-117	-124	-7	-82	-86	-4	-80	-66	-76	-117	-126	-94	-116	
補填財源	284	334	50	265	248	-17	328	322	-6	325	247	279	321	285	289	300	
単年度資金過不足額	149	190	41	148	124	-24	246	236	-10	246	181	203	204	159	195	184	
累積資金過不足額	-1,023	-980	43	-875	-855	20	-629	-628	1	-383	-202	1	205	364	560	743	
軌道事業分	31	72	41	61	112	51	189	246	57	317	380	465	551	592	669	743	
自動車運送事業分	-1,054	-1,052	2	-936	-967	-31	-818	-874	-56	-700	-582	-464	-346	-228	-110	0	

※ 四捨五入の関係で、計と内訳とは必ずしも一致しない。

(2) 建設改良計画

(単位:百万円, 税込)

区分	22年度			23年度			24年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	計画	実績	比較	計画	実績	比較	計画	当初予算	比較	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	
改良施設	軌道改良	200m	200m		400m	400m		400m	434.5m	+34.5m	100m		200m	200m		300m	200m
	分岐器改良	1か所	1か所														
	安全地帯上屋設置	1か所	1か所					1か所	1か所								
	駒場変電所改良										実施設計	機器製作	取付等				
	超低床電車購入										1両				1両		
	電車車体改良				1両	1両		1両	1両					1両			
	電車車体大規模改修											2両	1両		1両	1両	1両
建設改良費 計	120	114	-6	216	205	-11	230	286	56	265	350	253	184	224	143	141	
財源内訳	企業債	85	75	-10	146	133	-13	160	169	9	136	350	218	149	112	91	90
	国補助金	18	17	-1	35	40	5	35	47	12	65	0	18	18	56	26	26
	市補助金	18	17	-1	35	30	-5	35	35	0	65	0	18	18	56	26	26
	工事負担金								35	35							
	自己資金		5	5		2	2										
	計	120	114	-6	216	205	-11	230	286	56	265	350	253	184	224	143	141

※ 四捨五入の関係で、計と内訳とは必ずしも一致しない。

(3) 一般会計補助金総括表

(単位:百万円, 税込)

区分	22年度			23年度			24年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	計画	実績	比較	計画	実績	比較	計画	当初予算	比較	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画
施設改善関係	222	230	8	256	265	9	288	304	16	316	258	244	244	270	254	237
減価償却費	131	140	9	130	138	8	141	145	4	140	173	163	186	174	198	183
企業償還元利息	74	73	-1	91	89	-2	112	110	-2	102	85	64	32	30	30	29
LRT関連補助	18	17	-1	35	30	-5	35	35	0	65		18	18	56	26	26
基礎年金拠出金					3	3		14	14	9			9	9		
その他					5	5										
施設維持保守関係	34	25	-9	34	27	-7	34	34	0	34	34	34				
施設等保守費	34	25	-9	34	27	-7	34	34	0	34	34	34				
累積資金不足額処理関係	125	120	-5	124	86	-38	123	95	-28	122	120	119	118	118	118	110
累積資金不足額解消	118	118	0	118	85	-33	118	93	-25	118	118	118	118	118	118	110
一時借入金利息	7	2	-5	6	1	-5	5	2	-3	4	2	1				
合計	381	375	-6	414	378	-36	445	433	-12	471	413	397	362	388	372	347

※ 四捨五入の関係で、計と内訳とは必ずしも一致しない。

(4) 累積資金不足額の処理計画

(単位:百万円, 税込)

区分	22年度			23年度			24年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	計画	実績	比較	計画	実績	比較	計画	当初予算	比較	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画
前年度末累積資金不足額	1,172	1,169	-3	1,054	1,051	-3	936	967	31	818	700	582	464	346	228	110
資金不足解消額	118	118	0	118	85	-33	118	93	-25	118	118	118	118	118	118	110
支払利息	7	2	-5	6	1	-5	5	2	-3	4	2	1				
計	125	120	-5	124	86	-38	123	95	-28	122	120	119	118	118	118	110
資金不足残額	1,054	1,051	-3	936	966	30	818	874	56	700	582	464	346	228	110	

※ 四捨五入の関係で、計と内訳とは必ずしも一致しない。

2 収入に係る対策

(1) 料金制度について

対策項目	(ア) 均一料金制度についての検討の継続
対策内容	利用しやすい料金としての均一料金制度導入の可能性について、検討を深める。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input checked="" type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	担当者の協議を行い、近年、熊本市において実施した経過があることから、照会を送付し資料を収集した程度の実績となっている。しかし、平成23年度において震災以降大幅な収入減となったことや、平成24年度は交通料金助成方式の大幅な変更があったことから、試行などの調査ができない状況である。
今後の方向性	乗客動向アンケート調査の実施や、財政状況を勘案しつつ均一料金の試行実施について検討したいと考えている。また、消費税の税率アップの時期なども考えて進めていく必要がある。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	継続的に計画の実施が必要である。	計画の実施に向け協議を続けていきたい。
②	均一料金体系は望ましいが、それが無理なくできる交通機関を取り巻く環境の整備が整わなければ絵に描いた餅であろう。	増収対策の一環として、無理なく均一料金ができる条件について検討していきたい。
③	利用状況調査を最優先で進めるべき。利用区間別・年齢別のデータ収集に基づくシミュレーションを作るべき。アンケート調査はそのあとでもよいと思う。	現時点で利用区間別・年齢別などのデータについては、持ち合わせていないが、利用状況調査の手法についても検討していきたい。
④	毎月[1]のつく日を均一料金として、市民の市電に対する意識を高め、利用の向上を図る。	利用者増へ向けた対策の一つとして参考としたい。
⑤	協議や資料収集も結構ですが、議会や法律の問題があるかも知れませんが、兎に角、1ヶ月単位でも良いから資料収集の為に実施してみたいかですか。やってみなければ机上の空論になりますよ。	財政状況を勘案し、試行にあたって前年度や前々年度との比較ができる時期を見極めたい。
⑥	平成26年4月1日に8%、同27年10月1日より10%に、消費税率アップが予定されているので、それを見極めてから増税分を含んだ均一料金として実施すべきである。頻繁に改定する(均一料金を)ことは避けた方がよい。	同意見
⑦	200円の均一料金化が本当に増収につながるのか疑問。	料金設定を200円とした場合、増収となるのは非常に難しいと考えている。

2 収入に係る対策

(1) 料金制度について

対策項目	(イ) 新たな割引体系の検討および定期券等割引率の見直し
対策内容	「エコロジー・パス(環境定期券)等」新たな料金割引制度の導入検討および通勤・通学定期等の割引率の見直しについて、検討を進める。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input checked="" type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度	
評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	「エコロジーパス等」については、企画部との協議を数回行い、他都市の状況などを整理し、現状で調査・研究結果をまとめたところである。定期券の割引率見直しについては、未検討となっている。
今後の方向性	乗車料金収入が年々減少していることから、増収対策としての新たな制度について検討していきたい。ただし、格安で電車・バスへ乗ることができる「エコロジーパス」については、交通事業者だけでは対応できないことから、市の協力も必要となる。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方		
No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	交通事業者だけでは対応できず、市の協力が必要である。	同意見
②	高齢者に対する助成が変更となっており、現状では市の協力は期待できない。	エコロジー・パスの導入については、市の協力が不可欠であるため、市との協議をしながら検討していきたい。
③	エコロジーパスも望ましいが、収入の確保が前提である。	同意見
④	割引イコール増客とは限らない。まずは、収入減の原因を分析したうえで進めるべきではないか。単に増収を目指すのであれば、公共交通網の住み分けも重要と思われる。	前段、同意見である。中段、収入減の原因分析は当然必要である。後段、公共交通のあり方という大きな視点となり、経営計画の中での対応は難しい。
⑤	高齢者への乗車料金の割引きは通年で行う。	市の交通料金助成制度に基づき対応していきたい。
⑥	市の中心部から西部方面の人口減が顕著な今日、増客はますます困難になるとと思われる。都市計画からまず考えていかなければならないと思われる。	公共交通のあり方という大きな視点となり、経営計画の中での対応は難しい。
⑦	計画に遅れが生じているが、時代の要請でもあることから、計画目標の通り進めていくべきである。エコロジーパスについては、土・日・祝日等に限定した制度も検討しても良いと思います。	他の事業者においても土日祝日限定のエコロジー・パスを実施しており、検討していきたい。
⑧	新たな割引が収支改善に効果を期待できるとは思えないが。	収支改善に向け検討していきたい。

2 収入に係る対策

(1) 料金制度について

対策項目	(ウ) ICカード等新媒体の調査・研究
対策内容	ICカード, モバイル等新媒体の調査・研究を行う。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input checked="" type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度	
評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	具体的な調査は行っていないものの、公営交通事業協会等の資料により、他の事業者における事例のいくつかは把握している。
今後の方向性	ICカードに限らず、他のモバイル等新媒体についても、費用やその他様々な角度から調査・研究を進めていく。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方		
No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	現在の磁気カード式の供給体勢が途絶える可能性が現実味を帯びている現状を踏まえると、ICカードの導入に関わる民間事業者や行政の協力が必要になる。	関係機関等と協力しながら調査・研究を進めていきたい。
②	導入する場合は、独自のシステムでなく、他の企業と共有できるシステムが望ましいが、費用対効果の検討が必要である。	他の交通機関との連携や費用対効果も含めて調査・研究を進めていきたい。
③	これも進めるべきだが、予算の裏付けしだいであろう。	まずは費用対効果の調査・研究が必要と考えている。
④	利用者の年齢層の調査結果にもよるが、費用対効果の面で不要と思われる。	現在の磁気カード式のイカすカードの製造が出来なくなる可能性があることから、低コストで導入可能な新規媒体の調査・研究は必要と考えている。
⑤	他の事業者の例から導入した場合の費用対効果を判断することは、そう困難なことではないと思いますが。	他都市では、中心市街地の活性化等と関連付け、補助を受けて実施している例もあることから、様々な角度から検討していきたい。
⑥	計画に遅れが生じているが、導入予算・共通使用対象先を考慮の上、実施に向けての検討をすべきである。	関係機関等と協力しながら調査・研究を進めていきたい。
⑦	新媒体の導入が本当に収支の改善に寄与するのか。費用対効果についても慎重に検討すべきでは。	新媒体の導入により、利用者の利便性の向上が図られる可能性もあり、様々な角度から検討していきたい。

2 収入に係る対策

(2) 乗客サービスについて

対策項目	(ア) 職員の接客マナーと企業意識向上の徹底
対策内容	職員全員に対し、乗客接客マナーの向上を図るとともに、企業意識の徹底に努める。また、利用者の意見等を積極的に伺うための方策を検討する。
担当課	<input checked="" type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	苦情等は以前に比べ少なくなっており、効果は上がっている。
今後の方向性	苦情ゼロへの実践を掲げ、お客様の側へ立った接客のあり方を学びとる。(運輸サービス業に適した講師による接客研修の実施)

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	単に苦情を減らす程度を目指すのではなく、より良いサービスを目指すべき。具体的にどのような接客を目指すのか、明確な目標を定めて取り組む必要があると思う。	利用者が満足できるサービスの提供に努め、接客マナーの向上を目指します。このため、現在、接客研修リーダーの育成を進めており、乗務員一人ひとりがスキルアップに向け主体的に取り組む環境を整備しております。

2 収入に係る対策

(2) 乗客サービスについて

対策項目	(イ) 乗客需要に見合った営業時間および運行間隔の再構築
対策内容	乗客需要に対する効率・効果的な営業時間, 運行時分, 本数・間隔等について検討を行い, 運行体制の再構築を図る。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	<p>平成22年度には現行ダイヤの改正により, 5～6分間隔であった日中帯を6分間隔に統一したほか, 始終発においては, 繰り上げ・繰り下げを行うとともに6分間隔の時間帯を拡大し, 利便性を高めた。</p> <p>また, 改正前に行った分析どおり, 間隔を広げたことによる影響は生じておらず, 経費の削減が図られたほか, 利用者からも理解を得られているものと考えられる。</p>
今後の方向性	<p>平成27年開業予定の新幹線に合わせたダイヤ検討を行うとともに, 利用者ニーズの多様化や利用実態を分析しながら改正について見極めていく。</p> <p>また, 単に利用実態だけで判断した場合, さらに間隔を広げることも検討材料となるが利用側の「待っていただける間隔」の検討も行う必要がある。</p>

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	運行間隔を10分間にするにより, 人員や他の経費の削減が更に図られることになり, それによる減収は無いものと思う。	利用者ニーズや利用実態調査などの実施により, パターン別に分析しなければ判断は難しい。
②	すぐ利用できる時間帯は, 市電の大きな特色である。	現在の運行間隔は, 多くの利用者から時刻表を気にせず(待たずに)乗れるとの評価をいただいている。
③	1日中又は1年中, 統一間隔でなく, 通勤時間帯又は観光シーズン等で間隔の調整が必要ではないでしょうか。	時期的な影響等についても, 調査検討を実施したい。
④	函館中心市街地活性化基本計画の原案が公表されていることから, ダイヤ検討上行う上で参考にすべきである。	中心市街地活性化検討会には企業局交通部も出席しており, 当該計画の中で参考となる部分については考慮していく必要がある。
⑤	乗客増＝増収を第一に考えるべきではないか。お客さまのニーズに合っていれば, 多くの方に利用していただき, 収入増にもつながるはず。	利用者ニーズを把握するためにも実態調査の実施に努めたい。

2 収入に係る対策

(2) 乗客サービスについて

対策項目	(ウ) 電車内での市民・観光情報の積極的発信を図る方策
対策内容	電車内の液晶画面や広告スペースを活用して、広く市民向けの市政情報や来訪者向けの地域・観光情報を積極的に発信する方策を図る。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	新たに導入した液晶ディスプレイにより、市政情報や安全情報などを提供したほか、観光情報として活用されているスマートフォン等の通信サービスの向上を図るため、電車内でインターネットに接続できる環境を整備した。
今後の方向性	今後も引き続き、車内広告スペースの利用拡大を図るとともに、利用者にとって有用となる情報の提供について、方法を含めて検討する。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	乗客に対して車内でどんなサービスが行われているか案内が必要と思われる。乗客の大半が気がつかない。	利用拡大に向け、車内サービスについて効果的な周知方法を検討したい。
②	積極的に民間企業とタイアップしてCMを流したり、観光客に喜ばれる情報をもっと流してもよいのではないか。誰に何を伝えることで、どのようなお客さまに、どのようなサービスを提供できるのか。	今後も様々な手法について検討していきたい。

2 収入に係る対策

(2) 乗客サービスについて

対策項目	(イ) 他の交通機関との連携強化
対策内容	乗客の利便性を増やすため、民営バスなど他の交通機関との連携を強化する。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	従前から実施している主要停留場での乗り継ぎのほか、港まつりのイベント運行やレトロ電車運行に合わせた函館バスとの連携により、乗客の利便性向上を図った。
今後の方向性	今後も引き続き、イベント運行等に伴う函館バスとの連携のほか、北海道新幹線開業(平成27年予定)へ向け、関係交通機関との協議・調整を進め、路線運行に対する連携を強化していく。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	利用者の立場から見ると、バスの路線がわかりにくいので、十分な活用ができない。	路線については各事業者がそれぞれの観点から検討していく内容と考えており、当局では、他の交通機関との接続の観点から、利用者の利便性向上に向けた協議等を行っていきたい。

2 収入に係る対策

(3) 広告料収入について

対策項目	(ア) 電停ネーミングライツ(電停副呼称)制度の推進
対策内容	電停周辺の企業に対し、電停ネーミングライツ(電停副呼称)制度のPRおよび利用勧誘を積極的に働きかける。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	五稜郭公園前電停(野村證券)と魚市場通電停(函館信用金庫)の2箇所が継続して契約中である。
今後の方向性	広告効果を高めるため、現在の電停の表記を整理したうえで、さらに積極的なPR活動や利用勧誘に努め、利用の促進に繋げる。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	現在そのものずばりの停留所(競馬場前・中央病院前等)名は変更して現在の呼称は副呼称とするような方法も必要ではないか。	現在の停留場名は市民に定着していることも踏まえ、慎重に検討をしなければならないと考えている。
②	市電の持つ特性を考えると、良い方策とは思えないが。	当局では重要な収入源の一つとして考えている。

2 収入に係る対策

(3) 広告料収入について

対策項目	(イ) 車内・車外使用による新規広告商品の開発・販売
対策内容	車内および車外を利用した、新たな広告商品の開発と市内・市外企業へのホームページ等を活用した販売促進を図る。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	8101号車の車体(窓ガラス含む)広告と9601号車の「バナー広告」を販売したほか、「車内ストラップ広告」を開発した。
今後の方向性	今後も引き続き、新規媒体の開発と販売促進に努める。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	電車外観の全面広告はいかがなものか。一時的な増収に目を奪われず市電の観光資源としての価値を高めるべきではないか。	車体広告については、重要な収入源の一つとなっていることから今後も継続していく。しかし、都市景観への配慮といった観点から、広告の手法や内容などについて制限される可能性があり、今後、検討が必要と考えている。

2 収入に係る対策

(3) 広告料収入について

対策項目	(ウ) 広告料金の改定についての検討
対策内容	広告料金の単価等の改定について検討する。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input checked="" type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	他都市の調査は行ったものの、具体的な協議が行われていない。
今後の方向性	現状の分析や他都市の調査結果を踏まえ、広告料金の妥当性や今後のありかたについて検討を進めていく。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	広告料金という市場性で料金がコントロールされている情勢の中で、改定の主導権を交通部がもてるのかどうか疑問である。	市場性を考慮しつつ、局主導で料金を設定していきたい。
②	料金単額(現状)の提示による顧客の確保を優先する。	現在の広告媒体利用者の意見も聞きながら進めていきたい。
③	現状では、広告収入に頼らざるを得ないのは、理解できるが、今後、収支の改善が見込まれるのであれば、文化的な観点から、良質のものだけに制限も必要である。	収支改善の見込みが非常に厳しいことから、収入を確保する必要があり、文化のおよび良質のもの判断基準の設定も難しいと考えている。
④	他都市の状況調査よりも他の広告媒体の相場や当該広告の認知度や広告能力(影響)について調査すべきではないか。	参考としたい。
⑤	計画に遅れが生じている様なので、電車沿線企業及び大手企業等を中心に広告掲載予定や費用予算等についてアンケートを実施してはどうか。	参考としたい。
⑥	広告に妥当な料金などは存在しないと思う。高い広告料金でも納得していただけるよう、広告効果を高めるべきでは。	努力していきたい。

2 収入に係る対策

(3) 広告料収入について

対策項目	(イ) 電車の意匠を活用した新規商品の開発・販売
対策内容	電車の意匠を活用したオリジナルグッズの開発促進と販売を充実・強化し、電車事業のイメージアップと収入増加を図る。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	カレンダーや時計など地元業者の委託販売を強化したほか、東京都の交通100周年とコラボしたDVDを販売し、函館市電のイメージアップを図った。 なお、鉄道むすめのキャラクターを利用したポスターやステッカーは好評であった。
今後の方向性	今後も引き続き、新商品の開発や販売促進を強化するとともに、路面電車開業100周年に関連した記念グッズなどを販売する。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	オリジナルグッズの全国募集イベントを行い、グッズの期待度UPと函館市のPRを図る。	魅力ある商品開発も重要なことと考えているため、様々な角度から検討したい。
②	いろいろな方策を実施したことは理解もした。今後、どうしてもっと売れるかを考えることが必要では。	販売促進に向けた取組の強化について考えたい。

2 収入に係る対策

(4) 利用促進について

対策項目	(ア) 全市的なエコ・ライフ推進による公共交通機関の利用促進
対策内容	環境面での社会に対する負荷軽減の観点から、全市的なエコ・ライフ推進を図り、旅客単位輸送量当たりの二酸化炭素排出量が少ない公共交通機関の利用を呼びかける。
担当課	<input checked="checked" type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="checked" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度	
評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="checked" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	環境意識の啓発に取り組み、環境負荷が少ない路面電車の利用を呼びかけた。
今後の方向性	今後も引き続き、市環境部等と連携し、二酸化炭素排出量が少ない公共交通機関として路面電車の利用を呼びかける。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方		
No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	市電は、今後も市民や観光客の交通手段の大動脈であるという視点で収支を検討する。	同意見
②	乗車券に他の施設の割引券を付帯する。(例:スーパーやデパート又は五稜郭タワーやロープウェイ等)	エコライフの推進という意味ではないが、現在実施している1日乗車券の提示による協力店等の割引適用範囲の拡大(周辺商業施設等との連携による割引)等については、新媒體の導入とあわせて検討していきたいと考えている。
③	呼びかけるのはいいが、どれだけ乗客増につながったのか。成果が出ていないのであれば、やり方を考えなおす必要があるのでは。	エコ・ライフの推進は、市の環境施策の一環としてノー・マイカーデーの実施などの形で取り組まれており、今後についても市などと協力して取組内容などを検討していきたいと考えている。

2 収入に係る対策

(4) 利用促進について

対策項目	(イ) 路面電車感謝祭等イベント開催による市民への広報活動の実施
対策内容	路面電車の日や路面電車感謝祭等の行事を通じて、市民等の電車に対する関心を高め、利用促進を図る。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input checked="" type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	路面電車感謝祭や各記念事業など、毎年実施することにより、利用促進に努めた。
今後の方向性	今後も引き続き、職員自らの企画・制作・運営によるイベント等を開催する。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	具体的な成果をどう評価しているのか。また、より効果を高めるために、今後どのようにするのか。	数値に表されるような効果の判断は難しいが、イベントを通して市民や全国の路面電車ファンに関心を持っていただき、利用促進を図りたいと考えている。

2 収入に係る対策

(4) 利用促進について

対策項目	(ウ) 街頭キャンペーン等観光客対象の宣伝活動の拡充
対策内容	定期的に利用促進の街頭キャンペーンを行うほか、ゴールデンウィークや夏休み等観光シーズンを中心に函館駅前、湯の川温泉等で観光客に対する電車・観光地案内を実施する。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	電車沿線周辺の観光地案内を実施し、1日乗車券を利用した観光などを勧め、利用促進に努めた。
今後の方向性	今後も引き続き、各種宣伝活動を実施する。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	市内で停留所の案内だけでなく、停留所周辺の観光案内もされた方が良いと思う。	市電沿線の観光地の案内についても取り組みを行っている。
②	具体的な成果をどう評価しているのか。また、より効果を高めるために、今後どのようにするのか。	数値に表されるような効果の判断は難しいが、観光客に対し一日乗車券を利用した市電沿線の観光案内をすることにより、利用促進を図りたいと考えている。

2 収入に係る対策

(4) 利用促進について

対策項目	(エ) 沿線地域企業・団体等との連携協力による利用拡大
対策内容	沿線周辺の企業や商店街等と協力し、セール、イベント等の連携など地域ぐるみでの利用拡大を図る。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	路面電車沿線で開催される各種イベントの実施に協力し、利用の拡大に努めた。
今後の方向性	今後も引き続き、各種イベントの実施に協力し、利用の拡大に努める。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	今後、発表された函館市中心市街地活性化基本計画と連携した計画を進めるべきである。	同意見
②	イベント等の一過性のものでなく、恒常的な取り組みが必要ではないか。	市と連携しながら検討していきたい。

2 収入に係る対策

(4) 利用促進について

対策項目	(オ) 旅行代理店や観光コンベンション団体等との連携強化による利用促進
対策内容	旅行代理店・観光施設・観光コンベンション団体等との連携を強め、修学旅行の誘致等を行い、また各種パンフレット等に市電に関する内容を掲載し、観光客等に対し情報提供するとともに、市電乗車券を含んだ旅行パック商品等の拡大に努める。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	市電の乗車や車庫見学を含めたツアーや修学旅行時の市電を利用した社会学習コースなどを提案し、観光客等の利用促進に努めたほか、観光コンベンション団体との連携を強化し、一日乗車券等の利用促進に努めた。(H23修学旅行 464件, H23ツアー38件)
今後の方向性	今後も引き続き、旅行代理店や観光コンベンション団体と連携し、観光客等の利用促進に努める。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	なお一層の努力が必要。	営業活動の強化に取り組んでいきたいと考えている。
②	地元の学生・生徒等の遠足等にも利用をされる様に営業に努めるべきである。	営業活動の強化に取り組んでいきたいと考えている。
③	乗客増につながる可能性のある方策と思われる。但し、市側としてもより市電の魅力を高めるような取り組みをすべき。	同意見

2 収入に係る対策

(4) 利用促進について

対策項目	(カ) 交通事業等についての情報発信の強化
対策内容	市内公共交通機関との連携や民営バスとの乗継制度等についての周知のため、広報を強化し、地域の交通体系に関する情報発信に積極的に参画する。また、ホームページに、多言語表記による概要やブログ形式記事の登録等内容の充実を図る。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input checked="" type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度	
評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	乗継制度等の周知について、完了したほか、運行障害発生情報の発信を開始した。
今後の方向性	今後も引き続き、インターネット等を活用した情報発信の強化について検討し、ホームページの内容充実に努める。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方		
No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	乗り継ぎ制度等につき、引き続き、市政はこだて等で更に分かり易い広報に努めるべきである。	制度の周知も含め、広報活動は重要なことと考えている。今後は、周知方法についても見直しを行い広報活動の強化を行いたい。
②	目的を明確にして、誰にどのような情報を発信し、それがどのように乗客増につながるのかを整理すべき。	同意見

3 支出に係る対策

(1) 効率化の推進について

対策項目	(ア) 事務事業の見直しによる効率的な組織の確立
対策内容	毎年度、事務事業の点検・見直しを実施し、状況に応じた効率的かつ機動性に優れた組織体制の確立を図る。
担当課	<input checked="" type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input checked="" type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input checked="" type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	本計画策定時に想定していなかったが、水道局と組織統合し、管理部門における類似業務を一本化することで効率化が図られ、正職員2名と嘱託職員1名を削減したほか、交通事業者として課題となっていた安全管理体制の強化を行うことが出来た。
今後の方向性	事務事業の見直しを図る中で、更に効率的かつ機動性に優れた組織体制を検討していく。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	更なる職員数の削減は可能、組織体制の構築の再検討を望む。	安全性の確保や技術継承を十分考慮した中で、適時適切に見直しを図り、効率的かつ機動性に優れた組織体制の確立を図っていく。
②	水道事業や交通局に於いて工事を行う場合、都市計画事業との協議に於いて一体化した工事を行うことにより、より一層の経費節減や効率化が図れると思いますので、そういう部門での事務部門も必要ではないでしょうか。	現行体制の中で、経費節減や効率化を図るために、関係機関と事前協議しながら工事を進めており、新たな事務部門は必要ないと考えている。

3 支出に係る対策

(1) 効率化の推進について

対策項目	(イ) 施設整備業務および管理業務の外注化, 嘱託化推進による人件費の抑制
対策内容	技術職員, 事務職員等の担当業務について, アウトソーシング推進の見地からの評価を行い, 外注化・嘱託化を推進し, 人件費総額の抑制に努める。
担当課	<input checked="" type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input checked="" type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input type="checkbox"/> 事業課 <input checked="" type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	管理業務については, 水道局と統合したことで, 業務の一本化と効率化が図られた。 現在, 部分的な整備については, 外注化を図っているものの, 全体整備に対応できる業者がない状況である。このため, 外注化にあたっては, 鉄道関係の業者に技術を継承する必要があるなど, その手法等については慎重に協議しなければならず, 外注化拡大の具体的な計画が出来ていない。
今後の方向性	引き続き, 外注化について, 検討を進めていく。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	外注に対応する専門的な技術を有する業者や人材が払底しつつあるなかで, 現実的な処方箋なのかが疑問である。	直営整備にしる, 外注整備にしる, 技術継承は大きな課題であることから, 費用対効果を比較しながら, 検討したい。
②	職員数は31年度までの計画では, 105名前後としている。更に正職6割強, 嘱託が4割の比率になっているが, 正:嘱の比率を逆にすると年間1億円以上の削減になる。①100名以上の職員数が必要数なのか②管理は正職で行い, 実行は外注化出来ないのか検討・精査を願う。	厳しい事業運営を考慮し, 総人件費を縮減するため嘱託職員を採用し, 運行業務の一部を担当させている。本来であれば, 乗務員はすべて正職員であることが望ましいところであり, 嘱託職員の比率を増やすことは, 現在のところ考えていない。しかしながら, 安全面や経費面など様々な角度から調査研究していきたいと考えている。
③	この事業が今後縮小するものとするのであれば, アウトソーシングには一定の理解ができるが, 発展する方向に考える場合には, 従業員の仕事に対する愛着心や誇りを涵養するためには, 外注化は適さない。これも, 前提によってシナリオが異なる。	現在の経営計画では, 現行の営業路線を維持することを基本としており, 今後の計画を策定するうえでの貴重なご意見として, 参考としたい。
④	水道事業に於いては, 大いに外注化を促進すべきであるが, 交通事業に於いては, 外注化に当たっては, メリット・デメリット又は技術の継承等しっかり確認をしてからの方が良いのでは。	外注化については, 技術の継承などその手法等について慎重に検討していく。
⑤	外注化については, 慎重に検討頂きたい。	外注化については, 技術の継承などその手法等について慎重に検討していく。

3 支出に係る対策

(1) 効率化の推進について

対策項目	(ウ) 事業経費等の総点検によるコスト縮減					
対策内容	事務事業に係る経費について総合的な点検・見直しを行い、経費削減の徹底を図る。					
担当課	<input checked="" type="checkbox"/> 総務課	<input type="checkbox"/> 経営企画課	<input checked="" type="checkbox"/> 経理課	<input checked="" type="checkbox"/> 安全推進課	<input checked="" type="checkbox"/> 事業課	<input checked="" type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	電力量や共通経費の削減を行い、成果が上がっている。
今後の方向性	今後も引き続き、業務に係る様々な経費について、点検・見直しを行い、経費削減の徹底を図る。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	一番大きな経費は人件費です。	厳しい事業運営を考慮し、総人件費を縮減するため嘱託職員を採用し、運行業務の一部を担当させている。本来であれば、乗務員はすべて正職員であることが望ましいところであり、嘱託職員の比率を増やすことは、現在のところ考えていない。しかしながら、安全面や経費面など様々な角度から調査研究していきたいと考えている。
②	パソコンの普及により、どの事業所に於いてもかえて紙代がアップになっています。企業局に於いても例外ではないと思います。パソコンの効率的な使い方を工夫して、より一層の経費削減に努力して下さい。	今後も、配布資料のメール添付活用、両面印刷の推進などに努め、紙使用量削減の徹底を図っていく。

3 支出に係る対策

(2) 建設改良について

対策項目	(イ) 補助制度拡充等についての国に対する要望継続
対策内容	LRTシステム整備費補助金制度(現:地域公共交通確保維持改善事業費補助制度)について, 国に対し, 補助率の拡充や補助要件の緩和等を引き続き要望する。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input checked="" type="checkbox"/> 安全推進課 <input type="checkbox"/> 事業課 <input checked="" type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	全国路面軌道連絡協議会などを通じて, 補助率の拡充や補助メニューの拡大を要請した。
今後の方向性	今後も引き続き, 積極的な情報収集を行うとともに, 各種団体とも協力しながら, 国に対して要望を継続する。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	計画どおり進んでいることから, 今後の方向性のとおり進めていくこと。	

4 一般会計からの補助

(1) 施設改善関係に対する補助について

対策項目	
対策内容	安定的な経営を図るための施設改善関係を対象に、一般会計から補助を受ける。 ①減価償却費 ②企業債償還元金および一借利息 ③LRT関連補助 ④基礎年金拠出金ほか
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input checked="" type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input type="checkbox"/> 事業課 <input checked="" type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	ほぼ計画どおりの補助金額となっている。
今後の方向性	経費節減に努めたうえで、一般会計へ要求していきたい。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	できるだけ収支を改善し、補助金額を低減するよう努力すべき。	同意見

5 累積資金不足額の処理

(1) 計画期間を目途とする累積資金不足額の解消について

対策項目	(ア) 一般会計補助金による年次の処理
対策内容	市営バス事業に起因し、第1次経営計画から引き継いだ不良債務(累積資金不足額)について、本計画期間を目途とする年次計画により解消を図る。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input checked="" type="checkbox"/> 経理課 <input type="checkbox"/> 安全推進課 <input type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度	
評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	平成23年度において当該補助金は減額となっているが、これは電車事業での効果が出た分減額となったものである。
今後の方向性	軌道事業への影響を少なくするため、一般会計へ計画どおりの要求をしていきたい。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方		
No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	今後、電力料金・燃料費等の料金値上げが予測されるので、なお一層の経費節減に努めるべきである。	一層の経費節減に努めることは当然であるが、市営バス事業に起因した不良債務の解消補助金については、一般会計へ計画どおり要求していきたい。

6 走行環境の改善

(1) 安全性および定時制を兼ね備えた走行環境の整備について

対策項目	(ア) 電車優先信号設置等に係る関係機関との協議等継続
対策内容	運行の安全性と定時制を確保するため、電車優先信号設置や信号調整等について、引き続き関係機関と協議する。また、一般車両の軌道敷地内乗入規制措置等の強化を国に対し、引き続き要望する。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input checked="" type="checkbox"/> 安全推進課 <input checked="" type="checkbox"/> 事業課 <input checked="" type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度	
評価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	電車優先信号は、関係機関から電車のみを考えた信号調整は難しいとの指摘があり、現状では実施困難と判断した。一方、軌道敷内の乗り入れについては、マーキングなどの案について関係機関と協議したが、道路描写はできないなどの指摘があり滞っている。
今後の方向性	電車優先信号については、現状では実現困難と判断し、今後、状況が変わったときに再度検討をしていくこととした。一方、軌道敷内乗入規制措置等については、他都市の事例などを研究し、検討を深めながら関係機関と更に協議していく。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方		
No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	関係機関からの指摘で、…現状では実施困難と判断したうえ、状況がかわったときに再度検討であるのだから、この課題は一旦取り組みを中止してもいいのではないか。	事業者として、安全な運行環境の整備をしていくために、実現に向けた取組みを継続していく必要があると考えていることから、この項目について中止はしない。
②	これも電車事業のステイタスによって理解のされ方に違いが生じる。	事業者としては、地域公共交通の重要性を訴えながら、協議していくことを考えている。
③	交差点に於いて、電車が後にいるにも係わらず、軌道敷内に乗り入れて信号待ちをしている車が多く見られる。終日では大変でしょうから主要時間帯に於いての警察での指導・取締りを強く要望すべきである。	警察への要望については考えたい。
④	この方策にそれほど大きな必要性があるとは思えない。	「輸送の安全の確保」は、事業者にとって最も重要な方策であり、事業運営する上で最優先される事項である。

6 走行環境の改善

(1) 安全性および定時制を兼ね備えた走行環境の整備について

対策項目	(イ) 軌道敷内の電車優先運行についての自動車運転者等への啓発強化
対策内容	自動車運転免許試験場や自動車学校等を通じて、軌道敷内の電車優先運行啓発リーフレットを継続して配布し、周知徹底を図る。
担当課	<input type="checkbox"/> 総務課 <input type="checkbox"/> 経営企画課 <input type="checkbox"/> 経理課 <input checked="" type="checkbox"/> 安全推進課 <input type="checkbox"/> 事業課 <input type="checkbox"/> 施設課

平成22～23年度

評 価	<input type="checkbox"/> A. 完了した <input checked="" type="checkbox"/> B. 計画どおり進んでいる・成果が上がっている <input type="checkbox"/> C. 計画に遅れが生じている・あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> D. 計画が滞っている・全く成果が上がっていない
評価理由	計画どおり自動車学校等に啓発リーフレットを配付し、受講者への定期的な周知を図ったほか、街頭等において直接ドライバーに配付することで、軌道敷内の電車優先運行の周知に努めた。
今後の方向性	今後も引き続き、定期的に啓発リーフレットを配付するとともに、受け取った方が印象に残る新しいデザインのリーフレットを製作する。

局内評価に対する経営懇話会意見等と企業局の考え方

No.	経営懇話会意見等	意見に対する企業局の考え方
①	計画どおり進んでいることから、今後の方向性のとおり進めていくこと。	